

高校生の活躍

環境科学科の輝きを再び

山口農業高等学校 教諭 日高 俊和



本校は、県央部に位置し、明治18年に山口農学校として開校し、幾多の変遷を経て現在に至る農業高校です。今年度、開校137周年を迎え、2万6千人を超える卒業生は、山口県内をはじめ全国各地で活躍しております。

現在設置している学科は生物生産科・食品工学科・生活科学科・環境科学科の4つになります。そのうちの環境科学科の生徒達の活躍を紹介します。

第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会が10月26日に実施されました。各種競技会のうちの平板測量競技会に本校の4名の生徒が参加しました。競技は、富山県砺波市砺波総合運動公園にて行われました。各地方大会を勝ち抜いてきた全国47都道府県の代表校49チーム（北海道は3つのブロックに分かれており3チームの出場枠を持つ）が、日ごろの練習の成果を発揮すべく胸に闘志を秘め集っていました。

競技内容を簡単に紹介します。はじめにグラウンドに打たれた測点を平板という測量器械を使用して平面図を作る外業作業を行います。その後、境界線や対角線の長さを巻尺で測定し記録します。最後に屋内に移動して、2通りの方法で面

積を求めます。優劣を決める決め手は測量の正確さになります。それ以外にも数字や文字が丁寧に書けているか、図面は図紙の中央付近に記載しているか、必要事項の漏れはないか、計算間違いはないか、作業中の動作に不備はないか、制限時間内に各作業が終了したかなど多種多様な審査項目があり、それらをすべてクリアする必要があります。

本校の生徒たちは、3

名が昨年の県大会にも参加しており競技の経験がありました。県大会を突破することも難しく山口農高としては平成27年以来的の全国大会出場となりました。県代表に決まってからは、全国大会の用紙のサイズや野帳の記載事項等が県大会と異なる点を確認し全国大会仕様の練習を重ねていきました。具体的には測量針という先端が0.2mmの細さの針を真っすぐ立て、三角スケールの1目盛(0.5mm)の10分の1まで間違いなく読む練習をし



たり、数字を製図の際に用いるテンプレートのようなものに近づけたりと競技に必要なと考えられることはすべてできるようにしていました。

競技本番では、5測点を左回りに計測していくという課題でした。想定していた形状の課題だったため慌てることなく生徒たちは競技に臨んでいきました。指導者は、競技場には入れずスタンドから見ることでできないため遠くにいる生徒達をストップウォッチ片手に見守っていました。すべての競技を終えた生徒たちが戻ってきて自己採点をしたところ大きな問題はなかったものの精度が目標の数値に達しなかったということでした。



日本一

山口県立柳井商工高等学校

令和4年度の全国高校総体（インターハイ）において、柳井商工高校バドミントン部女子が学校対抗戦で優勝を果たしました。昨年の全国高校総体に続き、インターハイ2連覇、令和2年度の全国選抜大会、令和3年度の全国選抜大会から全国大会4連覇になります。

このような結果を勝ち取ることができたのも、学校や地域の方々の応援、協力、そして何よりも選手自身が目標と真剣に向き合い、日々の積み重ねを大事にしてきたからこそその結果だと思っています。本当にあの舞台に立たせていただき、最高の景色を見せてもらい、選手には感謝

しかし、その表情はやり切ったという顔でした。翌日、結果発表があり見事に全国1位となる最優秀賞を受賞。あわせて文部科学大臣賞・国土交通省国土地理院長賞を受賞しました。本校としては27年ぶりの**全国1位で四半世紀ぶりの快挙を達成**することができました。過去の優秀な先輩方に肩を並べることができたのではないかと思います。

大きなプレッシャーの中で大業を成し遂げた生徒たちに最大の賛辞を贈りたいと思います。

バドミントン部監督 竹光 唯至

の気持ちでいっぱいです。

これまでの柳井商工女子バドミントン部の実績としては、インターハイで団体3位が2回、ベスト8が1回、選抜大会でベスト8が3回、国体2位が2回と、いつも「日本一」まであと一歩というところでした。

このあと一歩を埋めることができたのは現3年生が1年生のときの3年生のおかげだと思っています。2年前はコロナ禍で選抜、インターハイ、国体とすべての大会が中止になり、対外試合もできず、ひたすら自校での練習が続きました。正直、先が見えない中での日々で、「何のため



に練習をしているのか?」「何を目標に過ごすのか?」もちろん私たちだけでなく、どの競技、選手も感じていたのではないかと思います。それでも当時の3年生部員全員が「これからの柳井商工のために卒業の日まで最後まで全力で取り組みます。」「残る先輩が絶対に日本一をとってくれると信じて最後までチームファーストで取り組みます。」そういった卒業式の日まで誰一人として手を抜くことなく全力で練習に取り組んでくれました。その姿を見て、実際に先輩のチームへの想いやプレーを肌で感じて、選手は変わってきました。バドミントンと「真剣」に向き合い、バドミントんに「熱意」と「情熱」を持って取り組むようになった。

自分に矢印を向け、自分自身と向かい合い、自分に足りないものは何なのかを真剣に考え、努力を積み重ねた。「チームのために」自分は何ができるのか、何をすべきなのかを一人ひとりが考えるようになった。

昨年の選抜大会での初めての日本一。そして本番の夏のインターハイでの日本一は、選手は

昨年一緒に戦えなかった先輩たちの想いを継いで、今までの多くのOB・OGの残してくれた柳井商工の伝統を継いで、選手一人一人がチームのた



めに懸命にプレーをしてくれた結果だと思っています。

今年のチームは、また新しい目標を立ててチーム作りをしてきました。チームとしては、選抜、インターハイと大会連覇はもちろん、団体、ダブルス、シングルの完全制覇、そして国内だけでなく、世界の舞台で戦うという目標を共有し、過ごしてきました。

結果としては、団体戦では大会連覇、全国大会4連覇という結果を残しましたが、インターハイの個人戦では思うような結果を残すことができませんでした。それでも、選手は今まで感じたことのない周囲からの期待やプレッシャーと葛藤しながらも逃げずに立ち向かい、目標達成のために準備を重ね、最後の最後までチームのため、仲間のためにプレーしてくれました。試合で勝った負けたではなく、選手が努力し、人として大きく成長してくれたこと、みんなで積み重ねたあの日々の時間が私にとって一番の宝物になりました。

今は、また新チームになり、新しい目標に向かって進んでいます。選手も私も現状に満足せず、更に上を、新しい景色を見たいと思っています。人が変われば、チームのカラーも、もちろん変わりますが、先輩たちが残してくれた想いと良い伝統を引き継ぎ、感謝の気持ちを忘れずに精進していきたいと思っています。

2028年ロサンゼルスオリンピックでは、世界をあとと驚かせる選手をここ「柳井」から輩出し、彼女たちの最高の笑顔が見られると信じています。

令和4年度「高校生熟議2022」開催

令和4年11月29日(火) 熊本北高校

において開催された高校生熟議の様子について紹介します。6名からなる全10グループ(グループ構成例…2学年の生徒4名、学校運営協議会委員1名、教員1名)に分かれ、Aグループ(5グループ)は「校則について」、Bグループ(5グループ)は「地域の活性化について」というテーマで、各グループの企画案作成に向けて熟議が行われました。総合司会者(代表生徒)による全体進行及び各班の議論を促進させる役割のファシリテーター(あらかじめ研修に参加した生徒会役員)の進行により、参加者全員が意見を出し合いました。

前半(第1ラウンド)「約30分」では、現状や課題について出し合い、後半(第

2ラウンド)「約30分」では、課題等の解決のための具体的なアイデアを出し合いました。そして最後に、各グループの発表(各2〜3分)が行われ、Aグループからは「アルバイト・服装・頭髪・スマホに関する各規程の見直し」等について、根拠も示しながら説得力のある提案があり、Bグループからは「高校内にカフェを作り、地域交流の場にする」「文化祭と地域のイベントを共同開催する」等の企画が提案されました。

高校生目線や保護者・地域目線、教員目線で、参加者がそれぞれの思いを自由に述べ合い、共有しあうことによって、校則の在り方や、地域の現状や課題などについて考えたり、気づいたり、提案したりすることで実りの多



見舞金給付事業

☆ 傷病見舞金

補償期間 4月1日～翌3月31日

見舞金負担金 全日制 300円

定時制 150円

被保険者

* 生徒（日本スポーツ振興センターの決定に基づき給付）

見舞金（最高4万円）

香料 3万円

* 保護者（PTA活動中のみ）

入院見舞金 最高3万円

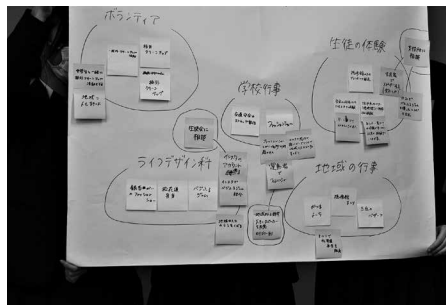
香料 3万円

☆ 障害見舞金 10万円

☆ 死亡見舞金 10万円

い熟議となりました。後日、各グループが模造紙に作成した熟議のフロー図を廊下に掲示し、全校生徒・教職員で共有しました。

高P連の後援による「高校生熟議」は熊毛北高校では今回が初めての取組です。コロナ禍の中、2会場に分かれて、三密防止対策を十分に行った上で実施しました。高校生熟議は、山口県や地域、各々校における様々な課題について高



校生の視点で主体的に考えることを通して、生徒たちのコミュニケーション能力を育み、主体的思考力や社会参画意識を高めるということを目的の一つとしている取組です。今後、さらに多くの学校において熟議が開催されますようご検討をお願いいたします。なお、熟議に関するお問い合わせは、高P連事務局までお願いいたします。



令和4年度 災害負傷状況

（令和4年12月末日現在）

運動種別件数

種別	件数
野 球	13
サッカー・フットサル	23
バ ス ケ	13
ハ ン ド ボ ー ル	1
バ レ ー ボ ー ル	4
ラ グ ビ ー	4
テ ニ ス	1
陸 上	4
バ ド ミ ン ト ン	1
柔 道	1
そ の 他	7
計	72

学校管理下状況件数

発生時	件数
授 業	12
部 活	58
登 下 校	4
学 校 行 事	3
そ の 他	3
計	80

部位別件数

部位別	件数
骨折	32
脱臼	5
半月板損傷	10
半月板断裂	9
靱帯損傷	15
靱帯断裂	13
打撲傷・挫傷・挫創	11
捻挫	14
脳挫傷・頭部外傷・くも膜下出血・脳震盪	1
軟骨損傷・炎症・骨炎・軟骨炎	0
アキレス腱断裂	0
ヘルニア・腰椎分離症・腰痛症	4
関節炎・関節痛症・偽関節・関節唇損傷	5
血腫	1
マレット指	2
その他	15
計	137

（重複しています。）

傷病見舞金 額別

見舞金	件数	合計額
¥10,000	18	¥180,000
¥20,000	6	¥120,000
¥30,000	4	¥120,000
¥40,000	11	¥440,000
¥50,000	41	¥2,050,000
計	80	¥2,910,000

障害見舞金

合計額	件数
	0

入院見舞金

合計額	件数
	0